

子どもたちが調べる水辺の生き物

～第33期 長浜市水生生物少年少女調査隊「みずすまし」 調査報告書～

令和元年度版



長浜市水生生物少年少女調査隊『みずすまし』



第33集

目 次

■はじめに	1
-------	---

■長浜市水生生物少年少女調査隊「みずすまし」について	2
----------------------------	---

■各小学校の調査結果と活動内容

○長浜小学校からの報告	4
○長浜北小学校からの報告	10
○神照小学校からの報告	14
○南郷里小学校からの報告	18
○北郷里小学校からの報告	24
○長浜南小学校からの報告	28
○湯田小学校からの報告	32
○田根小学校からの報告	38
○浅井小学校からの報告	42
○びわ南小学校からの報告	46
○びわ北小学校からの報告	50
○小谷小学校からの報告	54
○速水小学校からの報告	58
○朝日小学校からの報告	62
○富永小学校からの報告	66
○高月小学校からの報告	72
○古保利小学校からの報告	76
○七郷小学校からの報告	80
○杉野小学校からの報告	86
○高時小学校からの報告	90
○木之本小学校からの報告	94
○伊香具小学校からの報告	98
○余呉小中学校からの報告	102
○塩津小学校からの報告	106
○永原小学校からの報告	110

■令和元年度「みずすまし」資料編	116
○指導者研修会	117
○交流会	118
○川の生き物【きれいな水（水質階級Ⅰ）の指標生物】	122
【すこしきたない水（水質階級Ⅱ）の指標生物】	124
【きたない水（水質階級Ⅲ）の指標生物】	126
【大変きたない水（水質階級Ⅳ）の指標生物】	128
○調査ポイント一覧	130

はじめに

平成の終わりから令和の初めは、今までにない異常な気象現象が続ききました。平成 30 年の初夏の西日本豪雨がその始まりでした。総雨量は国内記録を更新し、二百名を超える命を奪う甚大な被害をもたらしました。それに続く真夏の猛暑は、体温をはるかに上回る最高気温を毎日のように更新し「酷暑」や「命の危険があるような暑さ」「災害級の暑さ」という言葉で表現されるほど厳しいものでした。さらに初秋の台風の襲来は、強烈な風と猛烈な雨により多くの建物やインフラにおびただしい被害を残しました。市内の学校が停電で休校になったことは、記憶に新しいところです。これらの気象現象は、「100年に一度の」や「かつて経験したことのない」などと表現され、あまりにも極端な気象現象に戸惑いました。そして、平成最後の冬、湖北地方に積雪はありませんでした。豪雪地帯といえる杉野地区でさえほとんど積雪がなく、80歳を超える古老に「生まれて初めて」と言わせるまさに100年に一度の異常気象でした。この積雪の少なさにより毎年春にある「琵琶湖の深呼吸」が初めて見られず、生態系への影響が心配されるほどでした。これらは地球温暖化の影響であるといわれ、今後その傾向はさらに顕著になるともいわれています。ついに地球規模での危機的な環境変動の現実が、私たちの生活に大きな影響を及ぼすようになり、将来に不安を感じさせるところまで来ました。この状況の中、環境教育には世界で起きている様々な環境問題を正しく理解させ、持続可能な社会の実現に向けて主体的に行動できる意識の高い子どもの育成が求められます。その意味において、本事業の『みずすまし』の果たす役割は、環境学習の第一歩としてますます期待されることです。

さて、長浜市水生生物少年少女調査隊「みずすまし」は、昭和 62 年に「環境に関心を持ち身近な問題の解決に向けた地域づくりのリーダーを育成すること」を目的に結成され、今年度で 33 年の実績を重ねてきました。子どもたちに環境問題について考えさせるとき、その切り口を水環境にすることは子どもたちにとって身近なものであり興味関心を高めやすいものです。特に水生生物を核として水環境をとらえようとすることは、子ども達の自然調査が活動の中心となり、自然に触れ、自然を観て考えるという五感を通して自然理解を深めることとなります。子どもたちは川底に生息する生物の多種多様性と個数の多さに驚嘆し、それぞれの特性の違いや、水質との関係に興味を持ち、探究心が高まり活動がより活発になり自然へのかかわりを深めていきます。この河川での自然調査活動により、その水が流れ込む琵琶湖へ目が向き琵琶湖の水環境についての興味関心へと発展することは、滋賀県の子どもたちにとって大切なことです。また、生息する水生生物の種類によって水質を調べるみずすましの活動は、科学的なものの考え方・見方の素地を子どもたちに育み、環境に対する鋭い感性と行動力をそなえた子どもたちを育成するための基盤となるものと考えます。

令和元年度は前年度までの成果を継承すべく、各学校の近隣の河川の調査をし、8月に代表校による「交流会」を実施しました。報告校の調査方法や調査結果のまとめ方、発表の方法の工夫は、他校の子どもたちに今後の取組にむけての参考になったであろうと考えます。また、この交流会が長浜の他の地域と自分たちの学校で調査した河川の違いを知る機会となり、このことがさらに身近な河川から調査範囲が広がりさらに発展していくことを期待します。

この度、『子どもたちが調べる水辺の生き物 ～長浜市水生生物調査隊「みずすまし」調査報告書』をまとめることができました。多くの方にご高覧いただき、地域の水環境の現状を知っていただくとともに、環境問題に関心を持っていただければ幸いです。また、今後とも子どもたちの活動にご理解とご協力を賜りたく存じます。

最後になりましたが、長浜市水生生物少年少女調査隊の諸活動に対しまして、保護者・地域の皆様、水生生物調査指導の講師の皆様、長浜市環境保全課の皆様にご支援ご協力をいただきましたことに、厚く御礼申し上げます。

令和 2 年 3 月

長浜市水生生物少年少女調査隊指導者連絡会
代 表 伊 部 月 征

長浜市水生生物少年少女調査隊「みずすまし」について

私たちの住んでいる長浜市は、日本一大きな湖「琵琶湖」のほとりにあります。私たちは、琵琶湖から汲み上げられた水、地下水、伏流水などを毎日利用しています。

家のまわりや遊び場、学校への行き帰りの道沿いには川が流れ、そのすべてが琵琶湖に通じています。川の水がきれいであることは、琵琶湖がきれいであることにもつながります。しかし、川の水が汚れていると、琵琶湖も汚れてしまいます。

私たちの暮らしと地域を流れる川、そして琵琶湖はとても密接な関係で結ばれています。川をきれいにするのも汚すのもそこに住む私たちの暮らし方しだいなのです。

■活動の目的

子どもたちが川で遊び、楽しみながら川の中にすむ生き物を調べることによって、川の実態を知り、環境を見る目を養い、身近な環境への関心を高め、環境づくり活動のリーダーを育成することが目的です。

■組織の概要

長浜市水生生物少年少女調査隊「みずすまし」は昭和62年に結成し、長浜市から河川の調査を受託しています。

毎年、市内小学校（今年度より義務教育学校を含む）の児童を対象に隊員を公募し、各小学校の同調査隊の指導教諭（長浜市水生生物少年少女調査隊指導者連絡会）が活動を指導しています。

平成19年度から浅井・びわ地域の小学校、平成23年度からは虎姫・湖北・高月・木之本・余呉・西浅井地域の小学校が新たに参画し、第33期目にあたる令和元年度は、25校537人の隊員と44人の教諭が長浜市内各地で河川の調査を行っています。

調査隊結成以来、令和元年度で延べ7,968人の児童が調査を実施しました。

■活動のねらい

子どもたちが自ら川に入り調査し、素直な目で川の実態を知ることで、川を汚さない行動や自然を大切にする子どもたちを育てます。

また、これらの活動を広く知っていただくことにより、川を汚さない・自然を大切にする行動が市民全体へと波及することをねらいとしています。

■活動の概要

川の中やその周りにはいろんな種類の生き物がすんでいます。川の汚れ具合によってその川にすむ生き物の種類が違います。きれいな川にはきれいな水を好む生き物が、汚れている川には汚れに強い生き物がすんでいます。

そこで、隊員たちは学校区内の川に入って、そこにすんでいる生き物の種類や数を調べて、その川の汚れ具合を判定しています。

また、普段の生活や活動を通じて身近な環境について気づいたことや感じたことを「環境日記」につけています。

■第33期（令和元年度）活動内容・参加内容

1. 水生生物調査（詳しくは、4ページ以降）

小学校ごとに校区内の河川の調査ポイントを調査しました。川の生き物の種類や数などを調べて川の汚れ具合の調査などを実施しました。

2. 長浜市水生生物少年少女調査隊「みずすまし」指導者研修会（詳しくは、117ページ）

日 時 令和元年5月10日（金）15：00～16：30

場 所 長浜小学校

参加者 指導教諭8名

内 容 湖北野鳥センター植田潤主査による水生生物調査の指導の仕方や実際の採取方法について、実技を交えた研修会を行いました。

3. 長浜市水生生物少年少女調査隊「みずすまし」交流会（詳しくは、118ページ以降）

日 時 令和元年8月8日（木）9：30～12：00

場 所 湖北文化ホール（湖北町速水2745）

発表校 7校

参加者 隊員62名のほか、指導教諭・来賓等を含めて110名

内 容 各校の隊員が集い、学校ごとに前期の活動報告や隊員による自己紹介、調査報告などを発表しました。

4. 「子どもたちが調べる水辺の生き物」調査報告書の発行

以上（1.～3.）の活動結果等を取りまとめ、調査報告書（本書）として発行しました。